

龍野ロータリークラブ週報

よいことのために手を取り合おう

2025-26 年度国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレッツォ

	2025-26 年度	例 会：毎週木曜日 12:30～13:30 龍野経済交流センター1 階
	会 長 伊藤充弘	事務局：〒679-4167 たつの市龍野町富永 702-1 龍野商工会議所内 TEL 0791-63-4141 FAX 0791-63-4360 E-mail tatsunorc1@gmail.com
	幹 事 神名大典	
	公共イメージ・広報委員長 段 克史	

No.13 (3215 号) 2025 年 (令和 7 年) 10 月 9 日 (木) 曇
例会記録

点 鐘 我らの生業
来 客 米山記念奨学生 ニン ニン トウ 様
カウンセラー 北野香織 様 (姫路西 RC)
来訪会員 石田文徳 様 (姫路西 RC)

出席報告

会員数	出席	出席免除	欠席	出席率	前々回欠席	マークアップ	修正出席率
21	13	3	8	68.42%	1	1	100%

会長の時間 ●伊藤会長

ロータリーのビジョン実現に向けて設定されたアクションプランについて今回もお話させていただきます。前回は3番目の「参加者の積極的なかわりを促す」についてのお話でした。今週は4番目の「適応力を高める」についてのお話になります。

その内容は、ロータリーのビジョン宣言のページに次のように書かれています。

- ① 研究と革新、および進んでリスクを負うことへの意思を奨励する文化を築く
- ② ガバナンス、構造、プロセスを合理化する
- ③ 意思決定における多様な考え方を育むために、ガバナンスを見直す

では、「適応力を高める」とは何を意味するのでしょうか。私たちは、ロータリーをより効率的、効果的、代表的で柔軟な組織にするために、革新、証拠、慎重に検討されたリスクを通じて新しい機会を模索しています。

適応力を高めることで、世界に変化をもたらす新たな方法を見つけられる組織として、ロータリーの強みを活かすことができます。いかにして変わりゆく世界に迅速に適応するか、いかにして新しい考え方をロータリーの強化につなげるか、ど

のような新しいアイデアが持続可能な変化につながるかを考える必要があります。

次に、なぜこの優先事項に取り組むのでしょうか。アンケートなどの調査の結果、ロータリーの現在の構造・アプローチと、取り組むべき活動の間にギャップがあることが浮き彫りになりました。ロータリーを最もよく理解している会員、リーダー、参加者は、ロータリーがより機敏となり、新しい声や異なる声を受け入れることを望んでいます。人口動態、テクノロジー、トレンドが変化すれば、機会も変わることを認識しなければなりません。革新、持続可能性、成長のための堅固な土台を築くために行動する必要があります。

クラブと地区が適応力を高める方法を考えることで、課題への解決策を見つけ、機会を活かし、目的意識を高めることができます。

適応力の向上に焦点を当てますと、クラブで出来ることは次のようなことです。

- ① 例会の代わりに親睦行事や奉仕プロジェクトを実施するなど、現会員を維持し、入会者を惹きつけるために、クラブ内でさまざまなことを試す。
- ② クラブ細則を見直し、細則が会員の現在のニ



ーズを反映していることを確認する。

- ③ 会員ではない人を理事会の会合にアドバイザーとして招き、新しい視点や異なる観点を取り入れることで、クラブでの変化を促す。
- ④ 会員にとって不必要な慣習をなくし、クラブで試すことのできる新しいアイデアを求める。
- ⑤ 新しいことを試みるための小さな基金を立ち

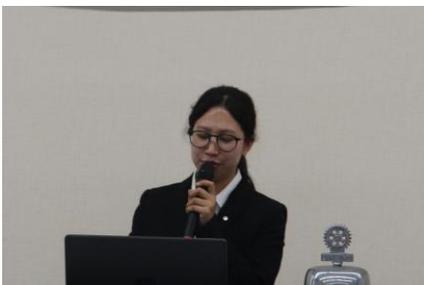
幹事報告 ●神名幹事

1. 以下の文書が届いております。

- ① 地区事務所より、2025-26 年度ポリオ根絶チャリティーゴルフコンペガバナナー杯のご案内
- ② 地区事務所より、地域社会の経済発展月間リソースのご案内
- ③ 地区事務所より、コーディネーターNEWS 8月号 NO.1
- ④ 相生 RC より、例会変更のお知らせ
- ⑤ 株式会社協和印刷より、廃業のお知らせ
- ⑥ 兵庫陶芸美術館より、特別展の開催及び広報資料の掲示等について（ご依頼）

米山担当委員会アワー ●皆木副委員長

米山記念奨学生 ニン ニントウ 様
「留学生そして奨学生生活で得たもの」



私の名前はニン・ニントウと申します。ミャンマーのシャン州で生まれ育ちました。現在は流通科学大学大学院で研究を行っております。趣味は旅行と登山で、自然に囲まれた場所に行くことが好きです。特に日本は季節によって異なる美しさを楽しむことができるため、大変気に入っています。山に囲まれた環境で育ったことから、登山も私の大切な楽しみの一つです。

日本に来たきっかけは、新聞奨学生としての経験です。二年間、新聞配達をしながら学業に励みました。経済的に自立しながら留学を支えた「新聞奨学生」としての経験が、日本での生活の出発点となりました。現在は、さまざまな人々と交流しながら学びたいという思いから、コンビニエン

上げ、会員や参加者からアイデアを募る。

学び、進化し、地域社会によりよく奉仕できるよう、研究と革新、および進んでリスクを負うことを奨励する文化を培いましょう。

以上のように書かれていたのをご紹介しましたが、私たちとしましては、一つずつ、少しずつ歩を進めて行ければと思います。

- ⑦ 神戸新聞より抜粋、「サロンコンサート」の掲載記事

2. Box 配布

- ① 米山特別寄付のお願い
- ② 揖龍地区 警察官友の会会員（対象会員のみ）

3. 連絡事項

- ① 職場例会の出欠表を回覧しておりますので、参加の有無をご記入下さい。

ストアや日本の伝統文化の一つである蕎麦屋でアルバイトをしています。

また、大学では「おしゃべりカフェ」のスタッフとして、1年生の留学生が日本語会話を練習する場を担当しています。この活動では、まだ学校に慣れていない学生が友人を作り、日本語で話す不安を少しでも解消できるようにサポートすることを目的としています。さらに、日本語能力試験（JLPT）の学習を手伝うこと、後輩の就職活動を支援する「就活アドバイザー」としても活動しています。自身の就職活動の経験を生かし、日本で働きたい留学生にアドバイスをしています。

出身国ミャンマーの人口は約 5400 万人（日本の約 42%）で、面積は約 68 万平方キロメートル（日本の 1.8 倍）あります。首都はネピドーで、135 の民族集団が存在する多民族国家です。1989 年に国名がビルマからミャンマーへと変更されました。民主化運動の指導者としてアウンサンサーチャー氏が広く知られています。私の出身地であるシャン州は、ミャンマー東部の中央に位置し、国内で最も広い州です。インレー湖という美しい湖があり、人々が水上で生活しています。また、仏教行事「ダザウンダイン」では、熱気球を夜空に打ち上げる伝統があります。ちなみに、ミャン

マー語で「こんにちは」は「ミンガラバ」と言います。

日本という国に対しては、幼い頃から強い印象がありました。父が機械好きだった影響で、「トヨタ」「パナソニック」「東芝」「ホンダ」などの日本企業を通して、日本が経済的に発展した国であることを知りました。大学在学中、Pale Nadi Agency という団体から「介護の仕事」を紹介していただき、日本で働く機会があることを知りました。そのことをきっかけに日本語を学び始めました。ミャンマーは発展途上国であり、経済・文化・教育の面で十分とは言えません。そのため、日本の高度な教育環境で学び、将来は母国の発展に貢献したいという思いから留学を決意しました。将来は、日本で学んだ知識や経験を活かして、日本とミャンマーをつなぐ架け橋として活躍したいと考えています。また、日本のような教育環境をいつか母国にも築きたいと思っています。

勉強内容についてですが、私は母国の大学でマーケティングを専攻して卒業しました。2022 年に来日し、「大和国際学院日本語学校」で2年間日本語を学んだ後、現在の流通科学大学大学院に進学しました。研究テーマは「食品小売業におけるオムニチャネル戦略の課題」であり、日本のスーパーマーケットの実店舗とネットスーパーの販売チャンネルをどのように統合していくかという点を研究しています。

留学して感じたことの一つは「言語の壁」です。母国で学んだ日本語と、実際に使う日本語の違いに戸惑うことが多くありました。発音や敬語の使い方、曖昧な表現などに苦労しました。私は「見て、聞いて、真似する」という学習方法で少しずつ身につけてきました。また、日本の文化の一つである「相手を尊重する言い方」や「時間を守る姿勢」「チームワークの大切さ」などを学び、自分自身の成長につながりました。

ロータリー奨学生としての生活の中で、私が最も得たものは「研究に専念できる環境」と「将来に向けた挑戦の機会」です。特に、学業と就職活動に力を入れることができ、その成果として大手企業から内定をいただけたことは、日本留学の大きな成果の一つとなりました。奨学金をいただく以前は、学業・研究に十分な時間を割きながら、アルバイトや就職活動を両立させることが非常に困難でした。しかし、奨学金によって経済的な負担が軽減され、研究や将来の挑戦に集中できるようになり、自分の努力を着実に成果へと結びつけることができました。

また、奨学生としての活動を通じて、学外での交流の機会も多く得られました。毎月の例会や交流会に参加することで、さまざまな職業の方々と出会い、新しい価値観や考え方を学びました。また、日本留学を通じて、国を超えて多くの留学生と交流し、日本語の学習から研究の進め方、キャリア支援に至るまで、多くの先生方と関わることができました。さらに、奨学金のカウンセラーの方々からは、日本のマナーや習慣についても学ぶことができました。その結果、支援を受ける立場から、他者を支援する立場へと成長することができました。具体的には、留学生と日本人学生が交流する「おしゃべりカフェ」のスタッフとして活動したり、学部生の就職活動を支援する「就活アドバイザー」を務めたり、仲間や後輩をサポートする機会を得ました。これらの経験を通じて、社会に貢献する喜びと責任を強く感じるようになりました。

以上のように、ロータリー奨学生としての生活は、学業面・職業面での成果だけでなく、人との出会いや相互支援の精神を学ぶ貴重な経験となりました。今後も、この経験を生かし、社会に還元できる人材として成長していきたいと考えています。将来には自分の母国ミャンマーに、教育を受けられる環境を築きたいと思っています。



Smile Box

伊藤会員	米山奨学生のニンニントウ様、カウンセラーの姫路西 RC 北野様をお迎えして。	永富会員	ニンニントウ様、北野様をお迎えして。
中村会員	米山奨学生ニンニントウ様、カウンセラー北野香織様、前西播第1グループガバナー補佐石田文徳様、龍野クラブへようこそ。	皆木会員	米山奨学生ニンニントウ様をお迎えして。
本條会員	米山奨学生ニンニントウ様とカウンセラーの北野香織様をお迎えして。	高岸会員	北野様、石田様、ニンニントウ様、ようこそ龍野 RC へ。卓話楽しみに聞かせていただきます。
本條会員	姫路西 RC 石田様をお迎えして。ようこそ龍野へ。	杉本会員	ニンニントウ様、よろしくお願ひします。
片岡会員	ようこそ！ニンニントウ様。お話し楽しみです。カウンセラー北野様、ようこそ龍野ロータリークラブに！ようこそ石田様！	伊藤会員	新しい事務局員として田村さんをお迎えして。よろしくお願ひします。

地区行事

例会日	プログラム	担当
11月2日	RLI (ロータリー・リーダーシップ研究会) パート I	未定

例会予告

例会日	プログラム	担当
10月23日	移動例会 イトメン株式会社	中村委員長
10月30日	卓話「赤とんぼの母 碧川方の生涯」 碧川かたを朝ドラの主人公にする会 上田富士子 様 文中智子 様	富田会員
11月6日	卓話	田中会員
11月13日	財団委員会アワー	高田委員長
11月20日	卓話	皆木会員
11月26日	西はりまライオンズクラブとの合同例会	片岡委員長
11月27日	休会	
12月4日	年次総会 (次年度理事・役員選出) 卓話	伊藤会長 谷口会員
12月11日	SAA アワー	永富 SAA
12月20日	クリスマス家族例会	北村委員長
12月25日	休会	